



社会福祉法人鶴風会

後援会ニュース

後援会ニュース6号をお届けします。

今号は昨年二月に有楽町読売ホールで完成試写会が行われて以来、各上映さきで好評を
はくしている映画「ともしびを高く」を中心に編集いたしました。

No.6 (昭和52年)
社会福祉法人鶴風会
後援会

東京都武蔵村山市中藤3260
☎0425-61-2521
事務所・東京都中野区
本町2-15-13 ☎03-372-7650



「ともしびを高く」英国で上映

羽 土 未 夫

日経新聞のフィルムライブラリーに掲載された「ともしびを高く」を手帳にメモしておいたのは、全くなげない気持からだだったので、その後、私の訪英計画が進むにつれて、このフィルムを借受けて、むこうで上映したら、私の日本の障害者の現状について語るよりも、はるかに意義のあることではなからうかと考えるようになりました。

この考えが間違っていないか、これは、英国での四回の上映を通じて見ていただいたすべての方々の言葉から確実に証明されました。 さっそく東邦大学微生物学教室へ電話したところ、担当の五島教授は私の願いを快くひき受けて下さり、フィルムを携帯して出入国するために厚生省児童家庭局から物品証明書を受けて、浜松町モノレール乗り場で手渡して下さいました。

おかげで、私は無事羽田を立ち、友人の住むハローゲート市についたのは昨年十二月二十七日のことです。英国は十四年振りとい

う大寒波と大雪にみまわれて、学校はまだ冬休みの最中でした。 一月十日から学校、グループなどが開かれはじめ、まず最初に私が訪問したのは、ボランティアの主婦たちによって障害を持った幼児の訓練が行われているプレーググループでした。

この教室は火水木曜の午前中にひらかれ、就学年令前の子供たち十四〜十五名が通って来ます。 障害は、おもにダウン症、自閉症でひとりだけ肢体不自由児がまじり、この子は教室が終了した後、特別に訓練士からマッサージや歩

行の訓練を受けていました。 毎週、木曜日にはバレエとピアノの先生が楽しいリズムのダンスや歌を教えてくださいます。プレーググループのカリキュラムは毎回、同じようなパターンが繰り返されているようでしたが、同じ歌、同じ踊りの中から徐々に発音の練習やリズム感が出来て行くようです。

子供たちは規定の時間以外は自由に絵を描いたり、本を読んだりつたりボールやおもちゃで遊んだりしています。

介助や指導をしているボランティアは大部分が主婦で自由な時間をこらした活動の中へ提供しているとのことでした。

このブレイクグループで「ともしびを高く」を上映することになったのは一月二十日の夜のことでした。その夜は就学児童もまじえて学生ボランティアがディスコパーティをやっていました。

障害児を持った親たちが二十数名集ったところで映写をはじめましたが、子供たちの訓練シーンが写し出されると感嘆の声が連発されました。



日本語版ではありましたが、時折の通訳もあって、それぞれの場面が正しく理解されているようでした。

ただ、運動会のシーンだけは、「クリスマス会」か「パーティ」のようでわかりにくいらしく、日本で行われる秋の運動会がどうしても理解されませんでした。

しかし映写後、熱のこもった拍手がおこり、内容の豊かさに対する賞賛がよせられました。数年間このグループの役員をしていたという主婦のひとりが、こうしてひとつひとつの生命がけん

が、一月十四日私は友人の勤める総合中学ウエザビー・ハイススクールを訪問しました。

訪問前日、大雪にみまわれて交通が混乱し、おくれたバスで友人と私が学校に到着すると、子供たちは雪遊びで大はしゃぎしていました。友人は私を上司に紹介し、化学部門の授業をふりかえて、これから大学受験をめざす生徒約二十名の前で「ともしびを高く」を

上映することになりました。上映後の生徒たちの質問は、こうした病院に入院した場合の個人負担はどれくらいになるか、国家補助はどの程度なのかなどのきわめてすごい高度なもので、私自身、福祉行政についての不勉強を痛感させられました。二人の女子学生は物理療法家になるつもりだが、こうした日本の療育を見て非常に参考になったと心をこめて語ってくれました。

めいに生きようと努力しているのに、かたやスコットランドのように宗教争いのために殺人を日々くり返しているというの

は理解出来ないと思嘆息していました。一月十七日はドクターバーナーのホームのひとつであるイアンテットレイ・メンタルスクールを訪問、この学校の生徒は男女あわせて七十三名で年令は四才から十六才まで、肢体不自由児が多く車椅子や歩行器具を使用していました。

時は前後します
リチャードソン校長はとてもに

こやかな先生で、私はここで授業参観や訓練の見学に参加、先生たちとの談話、寄宿舎内の見学等、忘れることの出来ない三日間を過ごすことが出来ました。

そして三日目の午前、リチャードソン校長は既定のカリキュラムを中止して「ともしびを高く」上映に振り替えて下さったのです。

映画を見た子供たちは手をたたいたり、歓声をあげたり、大騒ぎで大いに楽しんでいました。映画の中で女の子を男の子とやまって説明されていたのに私気がつくくと、校長はあわてて訂正され、子供たちは大笑いでした。

上映後、先生の一人から車椅子を使用して子供が写らなかつたが日本では車イスは使用しないのかという質問が出されました。

私はこのフィルムは肢体訓練状況を撮影したものであるため、ここに車椅子は出て来なかつたが、日本でも車椅子を利用している人は沢山いると話しておきました。

私の英国滞在中も三週間を過ぎましたが、最後にペンフレンドであるエンペリアル大学の学生に連れられてジョーランドブライアン宅を見て頂くことになりました。

三階建の大きな家は教師夫妻であるブライアン氏とジョー夫人が

黒人の子供や知恵おくれの子供を教育する私設の学校で、ジョー夫人はアフリカへよく旅行し、研究報告等をいくつか出版されているとのことでした。

私の出国前日、ジョー夫人を含めた教師六名の前で「ともしびを高く」を上映しましたが、口々にこれからの教育に役立てたい、とても良いものを見せて貰ってうれしかったと礼を言われました。

ウエザビー・ハイススクールからジョーランドブライアンスクールまで四回の上映を通して二〇〇名をこえる方々に「ともしびを高く」を見て頂いたのですが、私の下手な英語で語ったより、はるかに多くの言葉をこの映画が語ってくれたことと思います。

「ともしびを高く」の製作にあたられたすべての方々に感謝し、労苦をねぎらい、ここに英国での上映の成果を報告します。

《筆者紹介》羽土末夫氏 愛知県名古屋市の税関勤務のかたわら「愛知県障害児の不就学をなくす会」の実践運動の一つとして学生、保母が中心になって生まれた「ちくさ日曜学校」でボランティア指導員の一人として活躍されています。

感想文「ともしびを高く」をみて

去る二月四日、葛飾区立綾瀬中学校PTAで「ともしびを高く」を上映、そして、東京小児療育病院院長藤永敦江先生の「よい子を生み、よい子を育てましょう」の映画と講演の会がありました。

私も十四年前に早産をしましたが生きていれば今日の映画のよいうな子供をもっていたかもしれない。幸か不幸か亡くなりませんでした。もっと深く考えたいと思います。

先生の、胎児にとって母体の健康がどれ程大切かということ、母体の栄養が悪かったり、筋力が弱いために未熟児が生まれる、など、なかにはどうしても避けられないものもあるけれど、少しの注意で悪影響を最少限に食い止めることが出来るものがあるはず、母になるには、それなりの責任と自覚が必要で、又、不幸にして脳性マヒとわかったら、早期の療育を進んで受けるようにと提唱された講演には、多くの父兄が、感銘を受けられ、およせいただいた感想のいくつかがつぎに掲載いたします。

。わが家の食生活をもう一度見直さなければと思いました。とくに女の子にはバランスのとれた栄養をとり、良き母親になるための基礎を作ることが大切だということがよくわかりました。

。子供にとって母親がいかに大切か。もし脳性マヒの子供を持つたらどうしたらよいか。涙の出る思いでこの映画をみました。

。脳性マヒ児を私も沢山みてきた一人ですが、今日のような細かなお話がきけて大変勉強になりました。これから結婚する娘をもつ母親の一人として、今日の話をもとにして、まず一日も早く貧血をなおさせます。私自身、七ヶ月の早産でしたが、何一つ欠けることなく結婚生活に入れたのは、ラッキーだったの

。この映画をみて、五体満足な私達は自分の幸せをもう一度かみしめてみる必要があるとともにこの仕事に奉職していただける先生方、職員の方々、又ボランティアの方々、又ボランティアの方々の熱心な姿に頭がさがる思いです。

。大変有意義なお話で、参加してよかったです。私は息子だけですが、将来息子のお嫁さんになる、娘さんには、是非知ってもらいたい大事な事だと思っています。それには母親の娘への伝導、教育、しつけの問題だと思います。

。心身障害児の発生の原因がわかるとともに、偏食、欠食の恐ろしさがよく理解でき、これからの食生活に大変参考になりました。

。中学生の子供達にも、この映画と講演を是非きかせていただきたいと思ひます。

。四月中旬、代々木のオリンピック記念青少年総合センターで、東邦大学医学部のフレッシュユマンキヤンプが開かれました。種々の行事の一つとして「ともしびを高く」が上映され、これから医学を学ぶ人々の間に多くの感動を与え、特に心身障害児の問題に関心を寄せている学生から「今回のキヤンプで一番感動した。これから六年間、ただ学問を学ぶだけでなく、人間性を養い、色々な問題について考えながら、有意義な学園生活を送りたいと思う」との感想がよせられました。

。心身障害児の発生の原因がわかるとともに、偏食、欠食の恐ろしさがよく理解でき、これからの食生活に大変参考になりました。

△チャリティバザール開催の お知らせとお願ひ▽

☆昨年は皆様方の暖いご寄附により、無事にバザールを終えることが出来まして、係員一同感謝致しております。

☆本年は九月十八日(日)、東京小児療育病院において、バザール開催の予定です。食料品、調味料、ウイスキー、石けん、陶器、漆器、玩具、洗剤、書籍、衣料品、手芸品などでご家庭でお使いにならないものがございましたらご寄附下さい。衣類、玩具、書籍、家具など中古でも再使用に耐えるものでしたら結構です。

☆ご寄附下さる場合、八月二十日までに後援会(三七二一七六五〇)あてにお問合せ下さい。

現在までのフィルム貸出し

- 。日立太陽の家
- 。熱海市民生委員協議会
- 。三重大学めばえサークル
- 。岩槻学園
- 。おおぞらの家
- 。東大阪市立療育センター
- 。東邦大学薬学部
- 。東邦高等学校
- 。三つ藤自治会
- 。こども医療センター
- 。日本女医会
- 。鶴風会岐阜支部
- 。鶴風会神奈川研修会
- 。琉球大学
- 。国立栃木病院附属看護学校
- 。会津杏林学園高等学校
- 。埼玉県立コロニー嵐山郷
- 。品川区立城南小学校PTA
- 。葛飾区立綾瀬中学校
- 。青山学院大学
- 。学芸大学
- 。港区社会福祉協議会

後援会寄付者御芳名

バザー寄付者をふくむ
アイウエオ順・敬称略
三四二名(五・二〇三三)

赤司 俊雄・青木 幹恵・浅利 重子
天野 まぎ子・天野 八郎・青木 よし子
雨宮 三代次・荒牧 シモ・安西 美代
雨宮 キヨイ・相沢 ミツエ・安東 敬子
姉小路 和子・青木 悦・阿部 久代
阿部 賢昭・阿久津 絹江・天野 悦男
芥川 芳枝・青木 瞬・赤川 セツ
阿部 重正・安達 聡路・天沼 恭子
朝倉 富美子・飯田 昭子・一藤 木俊夫
井口 洋一・井上 照子・池野 ヨシ
市川 高吉・今野 信子・石塚 千代松
伊藤 雪子・磯村 光・飯岡 桃夜
稲垣 玲子・磯サワ子・五十嵐 いづ子
稲垣 正子・伊藤 徳子・稲葉 真理
池田 聖・石原 純・伊村 欣祐
伊藤 友二・井上 裕子・一宮 勝也
石川 きみ子・家原 小文治・今田 峰子
池田 節子・池田 志保・井口 昌亮
石田 和子・市川 ハナ子・池頭 エミ子
岩崎 裕三・内野 モモ子・白井 重三
内ヶ崎 仁子・内田 貴士・浦田 とみ子
牛込 莊一郎・梅宮 次郎・上田 富士子
海老原 ふみ江・大月 富子・大森 禎子
荻原 すみ子・小田 幸子・岡田 孝子
小田 けい・大下 久代・大池 淑子
大池 千賀子・岡村 匡子・小俣 文栄
小川 清・奥野 浩・大熊 進
大熊 はつみ・大室 輝雄・太田 道子
笠原 克・川合 朝子・河原 節
加藤 耕一・加藤 無名子・勝見 喜也
勝見 富美・加藤 美子・上高 嘉納子
釜瀧 登志子・亀井 正昭・風岡 とき
神永 はな・金子 忠子・郭 博文
川路 春雄・金子 覚・北川 フサ

岸田 俊夫・木下 佐・木内 徹子
菊岡 豊二・菊池 眼科 病院 岸 直枝
岸本 茂次郎・久山 斌・倉島 撰子
栗田 行雄・土藤 訓正・久保 田トモ子
栗田 邦夫・蔵方 節子・栗田 菊枝
小島 富子・幸田 文一・幸田 トミ
幸田 トモ子・小出 誠・小松 よう子
小山 伊松・後藤 重弥・児玉 筆子
呉 政子・小林 義郎・小松 伸弥
駒林 とめ子・小櫃 温子・河野 博太郎
古賀 和子・小森 きみ子・佐藤 はつ
佐藤 つや・佐藤 欣治・三辺 幸子
左京 福・桜井 様子・沢 いづ子
斉藤 英子・坂本 篤子・佐藤 艶子
佐々木 綾・佐藤 タミエ・指田 和明
佐々木 庄八・佐藤 菊枝・佐藤 照子
佐藤 一世・斉藤 三枝・三辺 武右衛門
篠田 陽子・柴田 富美・正田 二寿子
霜鳥 トミ・白川 令子・東海 林幸子
柴田 とら・下村 節義・清水 克司
柴田 光子・鈴木 繁雄・鈴木 禎子
菅 貞子・鈴木 和子・鈴木 てる子
鈴木 隣子・鈴木 君子・鈴木 竜太
鈴木 淑子・須田 経子・鈴木 明
杉本 寛子・瀬尾 昇・添田 百枝
園部 静子・武井 英典・高尾 三郎
谷口 量子・田中 政五郎・田中 彰夫
谷谷 ビノロ・竹田 北照・竹中 久三
田中 三重子・竹内 文雄・高橋 三代子
武田 和恵・田中 シン・多比良 勉
多田 正子・田崎 トシ・多比良 勉
竹内 敏之・田村 奈保美・田村 真理子
田島 静江・土屋 満枝・鶴見 秀男
出構 昭子・寺本 みや・徳永 恵子
友田 伊佐子・外山 千枝子・道下 富信
豊川 美枝子・遠山 富美子・富田 庄司
戸野 塚トシ・富田 大吉郎・中島 由紀
中里 玉子・直井 治子・中館 君枝
中川 富美代・長野 文子・仲 道子
中川 甲子・中島 信次・長田 絢子

中田 当里・中西 登美子・中野 泰孝
中沢 弥生・中川 礼子・二宮 文乃
西田 正子・西岡 将・韭山 まり子
西尾 涉子・西村 たま子・西浦 正輝
庭田 文子・野坂 達子・野崎 正平
馬場 進・蜂須 賀ふみ子・馬場 ヨシ
八田 孝子・蓮沼 ゆき・林 光子
橋本 静子・峰谷 イソ子・林 敬
林 益美・蓮沼 啓一・羽生 通恵
葉山 真治・長谷山 陽子・原 信子
春山 アイ・蓮田 清・長谷川 ふみ
林 睦子・平林 幸雄・東出 篤衛 東
出 祥子・比留川 真白野・チヨ子・東
野 寿美・樋口 正俊・福井 米子・船尾
求・笹木 トキ・古野 寿子・福永 ひろ
子・藤田 ルリ子・府川 則子・藤岡 美
津子・古川 明・藤田 真之助・藤崎 き
よ・藤田 トミ・古川 シマ・福永 光子
藤田 茂子・深田 和子・別森 かね子
星 友之進・本田 多喜子・星野 昌子
星野 夏子・松永 健治・松永 しげ
松野 マサヨ・松岡 栄子・正木 糸子
増田 富士子・丸山 和子・町田 純一
牧 甫・増田 礼子・牧野 忠夫
丸山 礼子・前川 信雄・松尾 セウ子
松尾 清子・増田 雅則・松尾 周子
宮崎 房子・三宅 重男・宮川 和幸
宮川 千鶴子・宮田 誠子・三戸 緑
三浦 道子・南井 美代・南井 登女子
宮山 フミ・三村 忠義・宮本 一郎
宮崎 信・水谷 菊枝・宮崎 よし
皆川 美美子・村田 美代子・室伏 繁一
室伏 弘子・武藤 キヨ・目黒 立子
守矢 公平・本橋 猛・本明 寛
森田 てい・守田 文彦・森下 光子
柳沢 浜子・山田 寛司・八木 薫
山口 辰雄・安田 千鶴子・山田 三枝子
山本 徳治郎・山口 中子・山田 松子
山寺 保・矢島 正・安富 佳子
柳沢 信子・山出 孝子・山県 カズ

柳瀬 路子・安間 弘樹・湯川 玲子
湯浅 英世・良田 圭子・吉田 実子
横山 寿美・吉田 千恵子・吉松 博
渡山 正子・吉田 トミ・渡辺 古都江
渡辺 茂・渡辺 四郎・渡辺 敬恵
渡辺 恵子・渡辺 満里子・渡辺 幸子
国立 栃木 病院 附属 看護 学校・東邦
医大 アメリカン フット ボール 部・
㈱ アニメックス・東邦 大 附属 高校
・東邦 大 附属 中学校・英商 事(株)
・東洋 信販・港区 社会 福祉 協議 会

玉子・寺内 政夫・芳賀 平八郎・福
田 垣男 他一同・といち 会・国立 予
研 村山 分室 婦人 部 保育 問題 サーク
ル・熊 捕 きみ・狹 窪 病院 青 藤 フミ
他 職員 一同・川島 フミ子・大 仁 商
店・立 川 市 社会 福祉 協議 会・あけ
の 星 会・スリー ポンド ㈱・武 陽 交
通 ㈱・信 託 協 会・岩 本 陽 子・玉 川
学 園・生 命 保 險 協 会・筒 井 こ て ふ
・田 鍋 庸 子・伴 匡 勝・関 根 正 治
・アド リブ 常 連 一 同・日 本 損 害 保
險 協 会・鴨 友 学 園 奉 仕 委 員 会・三
友 調 査 会・東 証 正 会 協 会・大 和
証 券 ㈱・山一 証 券 ㈱・三 井 物 産 ㈱
・三 光 純 業 ㈱・(有) 丸 紅 基 金・日
興 証 券 ㈱・(有) 清 水 基 金・福 田 み
ね・松 岡 一 機・鳥 海 千 力・荒 川 社
会 福 祉 協 議 会・東 京 不 二 電 機 工 業
㈱ 社 長 白 木 善 四 郎・日 本 電 子 ㈱
・七 重 会・前 川 報 恩 会・日 本 電 気 ㈱
・三 菱 商 事 ㈱・伊 藤 忠 子・日 商 岩
井 ㈱・住 友 商 事 ㈱・滝 幸 子・田 所
勝 次 郎・木 山 博 夫・東 京 芝 浦 ライ
オ ンズ クラブ・二 宮 文 乃・須 藤 き
み子

お知らせ

☆五十一年度の募金総額は、四百三十二万一千三十一円、ご
寄附いただいた方の延人数は、六百六十三名になりました。
た。なおほかに、チャリティバザールへのご寄附として、
百六十三万四千九百九円ございました。
☆日本重症児福祉協会の機関誌「重症児とともに」(十二号)
に、施設紹介として「みどり愛育園」が紹介されました。
☆秋にチャリティパーティーを開く予定であります。
☆後援会ニュースは年二回発行の予定です。紙面にみな様の
ご意見をとりあげたいと思いますので、お気づきの点、ま
た病院見学のご希望など、後援会あてにお知らせ下さい。